県民体育館の再整備等における考え方の方向性（案）

資料５

１．社会的背景・スポーツを取り巻く環境の変化

(1)人口減少や少子高齢化によるスポーツ環境の変化
(2)新型コロナウイルス感染症の影響やデジタル技術の進化によるライフスタイルの変化
(3)スポーツを通した健康増進、地域活性化、共生社会の実現への期待の高まり
(4)オリンピック・パラリンピック等を通したスポーツへの意識や国際交流への意識の高まり
(5)スポーツニーズの多様化

２．現施設の課題

■県民体育館の主な課題
○老朽化等により、修繕コストがかかるとともに利用に支障が生じている
○土日祝や平日夜間の利用率が高く、ニーズに対応しきれていない
○全国規模の大会やイベントなどに対応するためには観客席や駐車場が不足している
○プロスポーツなどのトップチームの大会の開催が一部の競技に限定されている

■多目的グラウンドの主な課題
○土日祝の利用が多く、ニーズに対応しきれていない
○J3入りが期待されている高知ユナイテッドSCの練習場所の確保が難しい

３．整備において考慮するポイント

(1)スポーツ振興における施設面の課題への対応
◇プロスポーツの誘致や大規模な大会等の開催、日常的なスポーツ活動のニーズの多様化への対応など、さらなるスポーツ振興に向けた施設・設備の整備

(2)スポーツを通した県政課題へ対応
◇交流人口や関係人口の拡大を含め、人口減少対策につながる整備

(3)災害時の避難環境の整備
◇整備候補地の環境を踏まえ、災害時の避難を想定した整備

(4)コストの削減
◇民間のノウハウを活用したイニシャルコスト(初期費用)及びランニングコスト(維持費用) の削減

(5)収益化の視点
◇継続して収益が得られるよう、多様な活動ができる施設・設備を整備

４．基本方針策定に向けた重点ポイント

(1) スポーツ×エンタメ
○全国規模の競技大会やプロスポーツの試合、コンサートなど、県内外から若者や子育て世代が集い、楽しめる空間を創出
○全県規模の競技大会等の主たる施設として整備

(2) スポーツ×防災
○災害発生時において、施設利用者の一次避難が可能な施設として整備

(3) 同種施設との役割の明確化
○周辺の同種施設の状況を踏まえ、県立のスポーツ施設として優先的に整備する機能・規模等を整理し実情に即した施設を整備

５．新施設の機能・規模

＜新体育館＞
・**必要なフロア面積を確保**するとともに、大規模大会やプロスポーツ、多分野のイベントの開催が可能な**アリーナ機能**を整備することが望ましい
・フロアをはじめ、附帯設備などに**多様な活用を想定した機能**を整備することが望ましい
・**災害時の避難を想定した整備**をすることが望ましい
・誰もが**自由に集える憩いのエリア**をつくることが望ましい

具体的な内容
○メインアリーナはバスケットボールコート2面～3面、サブアリーナはバスケットボールコート１面がとれる広さ
○メインアリーナは5,000人程度の観客を収容できる座席数
○屋外に憩いのスペースと現状以上の台数を収容できる駐車場
○多様な活用を想定した床、音響、照明、会議室・控室等の機能

6．整備候補地

＜新体育館＞
・交通アクセスの利便性を活かし、**県民体育館の現有地に整備**することが望ましい

＜多目的グラウンド＞
・**新たな整備については別途検討**する